

平成十九年新潟県中越沖地震

中越大震災の発生から三年足らず。七月十六日午前十一時十三分ごろ、新潟県上中越沖で激しく長い横揺れがあった。この地震による被害が特に甚大だったのは柏崎市。上越市でも旧頸北地域で震度6弱、そのほかの地域でも5強の強い揺れを記録し、県内沿岸には津波注意報も発表された。三連休の最終日を襲ったこの地震は、気象庁により「平成十九年新潟県中越沖地震」と命名された。

震源に近い柿崎、吉川、三和区では、大半の家で家具が倒れ、所々で塀が崩れるなどの被害が出た。老朽化した建物を中心に倒壊が発生。市の職員による危険判定が進むにつれ、中に入れない建物が増える。午後三時三十分すぎの大きな余震をはじめ小規模な余震も起きた。

日中から柿崎区の全域と吉川区の大半が水道が使えなくなり、夕刻には断水範

囲は大潟区や頸城区にも広がった。午後五時過ぎから市の給水タンク車と陸上自衛隊の給水車が柿崎区の十箇所で給水活動をした。吉川区では総合事務所前に市の給水車が飲料水をヒストン輸送し、お年寄りら災害弱者には消防団がそこからポリタンクで運んだ。

頸北の各区では避難所も設置したが、利用は一部にとどまり、人数も数人程度となった。大潟区の潟端町内会館には住民約九十人が避難したが、午後三時には自主解散となった。

吉川区では市の福祉担当者らが、高齢者や障害者の安否確認を行い、有線電話で、六百二十人の身の安全と所在の確認を午後四時までに終えた。

JR信越本線 青海川駅では、崩落土砂が線路を寸断。妙高高原東三条間で終日不通となった。北陸本線の糸魚川・直江津

間、大糸線の糸魚川・南小谷間、北越急行ほくほく線でも、運休が相次いだ。JR谷浜駅付近で緊急停車した特急「はくたか七号」の乗客約二百四十人は、バスによる代行で越後湯沢駅に輸送された。

高速道は午前十四分から北陸道糸魚川IC・新潟西IC間、上信越道中郷IC・上越JCT間が交通止めになった。午後六時には、北陸道上越IC・長岡JCT間を除き通行止めが解除された。

商業施設でも商品の落下、破損、荷崩れなどの被害が各地で多発。中越大震災のときよりも被害が多いケースが多かった。上越市では十六日午前十二時二十分に市役所に災害対策本部を設置。木浦正幸市長は地震発生後すぐに柿崎入り。視察後ライフラインの確保、被災者の不安解消に向け「心のケアを整えるように」と指示した。また、地震の発生を受けた十六日夕、安倍晋三首相が急遽ヘリコプターで柏崎市内に入り、被害状況の報告を受けた。

今年六月に発足したばかりの上越市防災士会は、今回の地震で被害の分布が頸北地域に集中したために、一斉招集をかけず、各防災士が住む町内会での活動を指示した。大きな余震が発生した場合の避難手順や、円滑な避難の準備などを的確にアドバイスして、感謝された。

一夜明けた十七日、上越市は午前八時三十分から各区総合事務所長を市役所に

集め、拡大対策本部連絡会議を開催。各地での情報収集、今後の対応策を確認した。木浦市長は、二次災害への注意喚起を指示した。今回の地震は余震の数がこれまで比べて少ないことが気象庁でもわかったが、一週間程度は強い余震が起きる恐れがあることで、注意が呼びかけられた。(編集部)



柿崎区荻谷の土蔵



柿崎区荻谷の土蔵



柿崎区角取の土蔵



吉川区総合事務所事務所



吉川中学校グラウンド



吉川中学校グラウンド



三和区島倉の土蔵



三和区島倉の土蔵